目的で出して見た所，死んだものと思つて居た蜘蛛がまだ生きて居るのに驚かされた。その間何も喰わずにコルク栓を施した管瓶の中で338日間も生きていたわけである。さつそく蠅を与えてやつたが一向喰わうともせず 349 日目の 10 月 25 日に絶命した。

此の蜘蛛が入つて居た管瓶は，1946, xi. 11～1947. iii. 30 の間は温突の部屋に，iii. 31～x. 14 の間は物置きに，x. 14 以後は再び温突の部屋に保管されて居た。

2. コガネグモの卵寄生蠅

筆者が倉敷の大原農業研究所で各種の蜘蛛の卵嚢を調査して居たときのことである。1 個のコガネグモの卵嚢を開いて見た所長さ 13 mm の蛆が盛んに蜘蛛の卵を喰つて居た。早速濕した砂を半分程入れた高腰シャーレに入れて蓋をして置いた所，卵を喰い盡し充分成長した蛆は砂の中に入つて蛹化し，間もなく *Sarcophaga* 属 (Sarcophagidae) の大きな蠅が 1 匹羽化出現した。ニクバエ *S. carnaria* L. の様に思つたが念の為め専門家の同定を仰ぐつもりで保管して居た標本が破損してしまつたので結局正確な種名はわからずじまいだつた。

岸田〔岸田久吉 クモタマゴバエ (食蛛卵蠅) に就て，Acta Arachnol., II, 3, pp. 90～94, 1937〕に依れば日本の蜘蛛卵寄生蠅は Phoridae (ノミバエ科) 及び Chloropidae (キモグリバエ科) の蠅であるとのことであるから筆者が観察した *Sarcophaga* sp. は蜘蛛卵寄生蠅としては日本で初めての例ではないかと思う。 (白甲鏞)

朝鮮鬱陵島の多足類 3 種

今年 3 月在大邱の白甲鏞氏が航空便で朝鮮の多足類標本を送つて下さつた。御親切を深く謝するものである。それは昨年 (1952) 8 月 14 日に李万正という御方が鬱陵島で採集したものでムカデ，ヤスデ合せて 5 個体あつた。この島は一名松島ともいい今の南鮮の東方日本海洋上にあり戦前は行政上慶尙北道に属していた。高桒先生に伺うにこの島の多足類は調べたことがないと仰しやるし文献にも見出し得ないので，僅かな種類ながら又その何れもが朝鮮から既知のものであつたけれども，ここに記錄して置く価値ありと考える。標本は次の 3 種であつた。

1. ヤケヤスデ *Orthomorpha gracilis* (C. L. Koch, 1847) 1♂ 2♀♀
2. トビズムカデ *Scolopendra subspinipes mutilans* L. Koch, 1878 ♂ (幼)
3. ヨシイツスンムカデ *Bothropolys yoshidai* Takakuwa. 1939 ♀ (高島春雄)

サソリで害虫退治

昭和 27 年 12 月 1 日附の朝日新聞に AFP 提供の記事として「エジプト政府では